

市政ニュース

地域住民が集まり、憩う交流拠点施設整備

県民交流広場、交流センター、子育てセンター竣工



▲中竹野地区県民交流広場完成を親子で祝う

県民交流広場が、3月13日、三江地区公民館(鎌田)に、24日には中竹野地区公民館(竹野町轟)に完成し、竣工式を行いました。

これらは、県の県民交流広場事業を受け整備したもので、さまざまな改修を行い、全館をバリアフリーにしました。当日は、地元の皆さんが、歌や踊りなどでオープンを祝いました。

また、27日には、資母地区交流センター竣工式を挙行了しました。



▶資母地区交流センター竣工を祝うパレードとコンサート

この交流センターは、県の「木の香るまちづくり事業」「県民交流広場事業」により整備したもので、地元但東産の木材を多く使用し、通常使わない「根曲がり材」を採用し、太陽光発電設備も備えた環境に優しい集会施設になっています。

なお、27日には、但東子育てセンターの移転・リニューアルに伴う竣工式も行いました。

さらに4月17日には、竹野南地区公民館でも県民交流広場竣工式が挙行されました。

信頼されるライフラインを目指して

第5次拡張事業 佐野浄水場竣工

市では、安全安心な水道水を安定供給できるように、水源の安定化、老朽施設の更新、水質対策の強化など、第5次拡張事業に取り組んできました。

このほど佐野浄水場の改築工事が完了し、3月25日、竣工式を行いました。

- 新施設は、
- 病原性微生物を確実に除去できる膜ろ過処理方式採用
- ↓薬品(凝集剤)使用量低減
- 水位差を利用したろ過処理
- ↓ポンプ運転省電力化



▲佐野浄水場竣工式のテープカット

○自然エネルギー(太陽光発電)活用
など、処理機能の向上と省エネルギーに配慮した施設となっています。

バイオマスタウン構想「山の緑を活用したバイオマスタウン」シルク温泉「やまびこ」で木質ペレットボイラーが稼動

3月27日、シルク温泉「やまびこ」に、木質ペレットボイラーシステムが完成し、点火式が行われました。

今後は、木質ペレットボイラーを主ボイラーとして運転し、既存の灯油ボイラーは、バックアップ用ボイラーとして使用されます。これにより、灯油の使用量が大幅に減少し、年間約590トンの二酸化炭

素の排出が削減できます。

当面は市外からペレットを購入します。しかし、今年度中に北但東部森林組合がペレット製造施設を整備される予定であり、平成23年度からは市内の間伐材などを原料とするペレットを使用します。地域のバイオマスエネルギーを地域で利用する循環型社会の実現を目指します。

主な市政の動き

3月

13日 三江地区県民交流広場竣工式(24日 中竹野地区県民交流広場)
16日 福住小学校児童サケの稚魚放流

19日 円山川漁協と港西小学校児童、ハマグリ放流

24日 豊岡市女性チャレンジセミナー
総合健康ゾーン健康増進施設「ウエルストーク豊岡」オープニングイベント(29日)、竣工式(28日)、グラントオープン(4月1日)

25日 佐野浄水場竣工式

27日 資母地区交流センター、但東子育てセンター竣工式

29日 一般国道426号豊岡バイパス(第2工区)開通を祝う会

4月

1日 豊岡市無料職業紹介所開設

豊岡市水道お客さまセンター開設

豊岡市のブランドマーク採用

市街地循環バス「コバス」4月1日ダイヤ改正

新車両「玄さんのコバス」運行開始

市街地循環バス「コバス」の4月1日のダイヤ改正では、総合健康ゾーン（ウエルストーク豊岡）にコバスのバス停を新設しました。これに伴い、発着点を「じばさんセンター」から「総合健康ゾーン」に変更するため、Aルートは、一部の便を除き、「立野町」じばさんセンター」まで運行しないようになりました。

また、Aルートの車両を乗降がしやすいノンステップ（低床型）バスに更新しました。この新車両は、市内の路線バスでは初めて「アイドル・ストップ・システム」を搭載しており、赤信号などの車両停車時には自動的にエンジンが停止する、環境にやさしい仕様になっています。

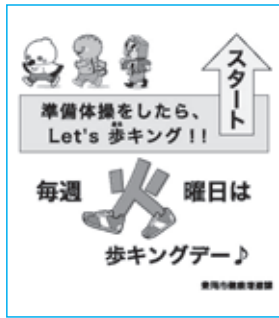
地域の公共交通を守るため、皆さんの利用をお願いします。



▲山吹色の車体に、市のマスコットのラッピングが施された新車両

楽しく、効果的に歩いて、健康づくり

円山川ウォーキングコース整備



▲スタート地点表示板

市では、誰もが気軽に取り組める歩くことによる健康づくりを「歩キング」と名付みの一環でもあり、今後策定する「スマートウエルネス豊岡構



▲スタートから2km地点の表示板

川堤防上周囲コース(約4.5キロメートル)をウォーキングコースに設定し、3月30

想」の事前事業として、ウォーキングロードを設定しました。総合健康ゾーン東側の円山

日、歩き初めを行いました。コースには、500メートルごとに、距離表示、消費カロリー、効果的な歩き方の路面表示があります。ぜひ、健康づくりに役立ててください。



▲ゴール地点表示板

中貝市長の徒然日記 ③

コウちゃん帰還す

1970年12月、くちばし折れた1羽のコウノトリが武生市(現越前市)の白山・坂口地区に舞い降りました。子どもたちは「コウちゃん」と名付け、観察や餌場作りをして見守りました。しかしその鳥は満足に餌を捕ることができず、やつれていくばかり。やむなく捕獲され、豊岡の飼育場に運ばれていきました。以

来、コウノトリが白山・坂口地区に現れることはありませんでした。ところが今年の4月1日、豊岡生まれの2羽のコウノトリが白山地区に舞い降りたのです。

コウノトリが帰ってきた！40年ぶりです。エイプリルフールではありません。地区は歓声に包まれました。

偶然でしょうか？いいえ、白山・坂口地区の人たちは、いつかまたコウノトリがやってくるようにと、農薬に頼らない米作りを始めていたのです。その名も実に、「コウノトリ呼び戻す農法」！です。

2008年10月には、私も越前市に招かれて豊岡の取組を紹介し、いつかきつとコウノトリが帰ってきます、と励ましていました。越前市の奈良市長と農家の方々が豊岡にいられたこともありました。コウノトリが、その熱意と努力を評価し、表彰状を持って行ったに違いありません。

ところで、コウちゃんはどうなったのでしょうか？豊岡で「武生」と名付けられ、長らく独り身でしたが、1990年に多摩というオスとカップルになりました。そして94年、待望のヒナが生まれました。2003年に高齢だった多摩が死亡。再び独り身になりましたが、05年4月に孫4羽が生まれています。



当時の白山の子どもたちが、くちばし折れたコウノトリの像を製作。願いは、まじく届く。今も白山にたたずむ。改めまとう思う。